本郷次雄先生を偲んで

池田 良幸

もう一度お元気になられることを願い、永年に亘るご指導、拙書『北陸のきのこ図鑑』の監修、そして体調が思わしくないにも拘らずこの図鑑のための序文を寄せていただいた等々のご尽力に対し、改めて厚くお礼を申し上げる機会を待ち望んでいたのに、その願いかなわず、先生は去る4月2日永眠されました。眞に残念です。

顧みれば、昭和32年に保育社から原色日本菌類図鑑が発行されるまで、キノコについて教えを乞うても、地元大学から無視され、頼る物も人もなく、ただ一人で試行錯誤していた折、図鑑の著者のお一人であられる本郷次雄先生を最後の頼みと、全く面識も紹介もなしに門を叩いたところ、「資料を持って来なさい」とのお返事を頂き、恐る恐る言えば稚拙な画、粗雑な標本を一つ一つ丁寧に見て下さり、次々と同定して下さいたあの時の様子は40年余を経た今でも鮮明に蘇り、あの喜びは生涯忘れることはありません。あの時、先生が手を差し延べて下さらなかつたら、あの時点で私はキノコ研究を放棄していたと思います。

それ以来、年に一度、一年間に書き溜めた画や標本を持って、大学の本郷研究室やご自宅に伺い、ご指導を頂きました。先生には菌学だけでなく、“教師はどうあるべきか”、キノコを通じて“自然観察とはどんなことか”を態度で示されたように思います。先生は押しつける指導でなく、求めた事に対し極めて懇切丁寧に教示され、むしろ聞き上手で、私

のようなものを見聞した事でもすべて耳を傾けられ、ついつい長居をしたことが常でした。

ご指導を頂いて20年ほど経た頃、「もう大分資料も溜まっただろうから、この辺でまとめたら」と図鑑出版を促されたり、「きのこ会を作ったら」と、きのこ会設立を勧められたりしました。しかし、私にはその力量がないと固辞していたのですが、日本各地のきのこ図鑑を見せて下さったり、各地のきのこ会の様子を話され、「力になるからぜひやりなさい」との先生のお声がかかりで誕生したのが「石川きのこ会」です。それ以後15年間、先生に会の顧問をお願いし、会員の資質向上と会の発展の為に遠路はるばるご足労をお願いしてきました。調べるより食べる方に関心の強い会員を、現在の様に県内各地の調査活動に精出す姿に変容できたのも、先生の大きな指導力の賜物と会員一同感謝しております。

先生から頂いた大恩は筆舌で表現し尽せず、もどかしい思いです。先生に充分なお礼を申し上げられなかった悔いと、老いの身に余命幾許もありませんが、菌学発展の為に微力ながら尽くすことで恩の万分の一でもお返しできるかと、先生のご遺徳を偲び、ご冥福をお祈りしながら、目下、手元の標本を整理し、国立科学博物館へ納めております。先生、永い間有難うございました。

初出：菌教通信 第11号、菌学教育研究会、2007年5月発行